

安全と標準・認証研究会準備会メモ

第1回準備会メモ(2002. 9. 19) (準備会 議事録を改称)

日 時: 2002年9月19日午前10:00~12:00

場 所: 日本機械学会(信濃町煉瓦館5階)会議室

出席者: 杉本(北九州市立大学)、坂(三菱総研)、松岡(IHI)、柘平(TUV Rheinland Japan)、中田(Open System Inc.)、野口(Bureau Veritas、記)

注: 安全・標準と認証研究会(仮称)[以下, 認証研究会(仮称)と称す]

議題: 認証研究会についての Concept 設定

1. 経緯について、野口より説明

2. 最近の動向について杉本先生より説明

(1) PCB 処理設備について Risk Communication を第三者検査・認証機関をかませる事で解決しようとしたが、結果的に検査・確認が極めて多くなり稼働率が30%程度の謂わば徐行運転を余儀なくされ、失敗であったと言わざるを得ない。

(2) 日本には未だ設計者・製造者が無限責任を負わざるを得ない社会環境にあり、その時代の適用可能な技術(State of the Art)と規格により設計され、第三者の検査・認証により設計者・製造者を解放(免責)するシステムを確立する事が急務である。

(3) サービスロボットについての安全規格を NPO 安全工学研究所、機械学会のロボメカ部門などを中心に作成し、それに従って第三者機関が認証する事を考えている。

3. 本研究会の役割について、参加委員から侃々諤々の議論が出て、最終的に以下の様な形を考える事とした。

(1) 国際的には ISO12100(A 規格)を頂点に、B 規格、C 規格が整備され運用されているが、日本では ISO12100 と同じ JIS が制定されたが、未だに普及していない。今後、ダブルスタンダードは PL 方との絡みでは許されなくなりつつあり、日本も早急な国際化が必要である。その中で、このシステムをきちんと動かす為に第三者認証は極めて重要である。

(2) この委員会は、サービスロボット(ホビー用、家庭用、手術用など)を例として、認証のあり方を具体的に考える場とし、同時に啓蒙活動を行う事を目的とし、機械学会から発信していく場とする。

(3) 研究会のメンバーは、既に存在する第三者認証機関(国際、国内)、産業化学機械部門のメーカー及び、ロボメカ部門にも声をかける事とする。

(4) 会の名称は、依然として仮称であるが、以下の案で案内を出す。

- ・ リスク評価と第三者認証研究会
- ・ 安全性にかかわる標準化と第三者認証研究会

4. 次回は11月8日(金)9:30~12:30, 日本機械学会会議室(東京都新宿区信濃町35番地信濃町煉瓦館5階)で開催する。それまでに委員の募集を行う。